



たくあんという名がどうしてついたの

はっきりしたことはわからない

たくわんともいいますが、たくわんは、たくあんの音^{おん}が変化^{へんか}したものです。

たくあんは、つけものの沢庵^{たくあん}づけの略^{りやく}です。

たくあんは、干^ほしダイコンをぬか^{しお}とでつけたものです。

どうしてたくあんというようになったかという、はっきりしたことは、わかりません。

二つの説^{せつ}がありますので、紹介^{しょうかい}しましょう。

沢庵和尚^{たくあんおしょう}がつけ物^{もの}をはじめたからという説^{せつ}

江戸時代^{えどじだい}の初め^{はじ}のころ、臨濟宗^{りんざいしゅう}のお坊さん^{ぼう}に沢庵^{たくあん}という人^{ひと}がいて、そのお坊さん^{ぼう}がつけ物^{もの}のたくあんを始めたから、たくあんというようになったという説^{せつ}です。

このお坊さん^{ぼう}は、えらい人^{ひと}だったのですが、一時^{いちじ}、江戸幕府^{えどばくふ}と対立^{たいりつ}し、ばっせられて出羽国^{でわのくに}（山形県^{やまがたけん}）に流^{なが}されました。その後^ご、許^{ゆる}されて、都^{みやこ}にかえりました。天皇^{てんのう}や将軍^{しょうぐん}がその教え^{おし}にしたがい、たいへん信賴^{しんらい}されました。その後^ご、江戸^{えど}に東海寺^{とうかいじ}を建て、開山^{かいざん}（寺^{てら}を始め^{はじ}て開いた僧^{ひら}、開基^{かいき}）となりました。

もともと「貯えづけ^{たくわ}」といったという説^{せつ}

つけものに「貯えづけ^{たくわ}」というものがあり、貯えづけ^{たくわ}という名前^{なまえ}が、なまって、「たくあん」というようになったという説^{せつ}です。（監修・青木 国夫）

